

2014年12月

ミニセミナー活動報告

2014年（平成26年）活動

第二回ミニセミナー開催

日時：2014年12月3日（水） 19:00-21:00

場所：日清製粉株式会社神田錦町本社

題名：食の魅力、再発見

～食を仕事にする人のミッション～

講師：有限会社たまご社 代表取締役

NPO 法人食育研究会 MoguMogu 代表理事 松成容子氏

本文：

有限会社たまご社の代表として、チーズの教本・飾りパンやシュトレンなどの専門書の編集を手がけ、NPO 法人 MoguMogu の代表理事として多くの場所でセミナーを開催し子供だけでなく、大人にも食の魅力を伝え続ける松成容子氏を講師にお招きし「食の魅力、再発見」と題したミニセミナーを開催し、会員・幹事・相談役含め30名が参加しました。

参加者を5つのグループに分けて、軽食を兼ねて1つの大きなパンをみんなでちぎり、バター・ジャム・蜂蜜・クリームチーズ・マスカルポーネ・リエット・ハムを合わせながら食べ、各グループでの交流を深めながら食育のイメージについて意見を出してもらいました。

参加者が持っている「食育」のイメージを聞いてみると・・・

「子供のためにするもの」「生産者を見る」「パンは時間がかかっていることを知り、感謝して食べる」「食を通して身体に心にプラスになれば食育」「数年前食育という言葉をよく耳にしたが最近はきかなくなった」「いつも子供に早くしなさい！と言っていて反省している」と様々な意見が出ました。

世界での食育の歴史、日本で2005年に食育基本法が制定されて以来、MoguMoguではどのような活動を行っているのかなど話を聞き、昔は親や大人が子供に対して行っていた食育は現在、知っている人が知らない人に伝える・気が付いている人が気が付いていない人に伝えるという様に変化し、上から目線だった食育が変わってきている。

今現在自分が健康でいられるのは両親がちゃんとした食生活で導いてくれものだと感謝し、次の世代にも引き継ぎたい。大人も子供も食事が楽しいという体感を共有し続けることが重要。子供は調理や配膳の手伝いをするにより人の役に立って自分に価値があると思え、今まで提供されていた食事が違う意味を持つようになり食卓で家族・仲間と食べることで食は楽しいと思えるようになる。

“同じ釜の飯を食う仲間”と同じように仲間 (COMPANION) とは“共にパンを食べる人々”という言葉であるように、パンは人と分けて食べるものであるという講師の言葉には大きくうなづく姿も。

食に携わる人にミッションとしては、素材の都合を食べ手に伝えること。

消費者と自然の中間に立つ者として、心の目と耳を大切に、感度をもって畑からのメッセージになって欲しいと講師から激励の言葉がありました。

孤食・個食が進む現代のなか、今一度食の魅力を見つめなおし、パン・食品にかかわる仕事をするものとして・社会人として・母として、「おいしいねっ」と言いながら楽しむ食卓に美味しいパンを届けられ、食べる楽しさを伝え続けることの大切さを知りました。

参加者からは「今まで食育に関してモヤモヤとしていたことが腑に落ちた」「久々にワクワクした」という感想が聞こえてきて、和やかなセミナーとなりました。



以上